

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市松岩中学校

種別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫教育  
 中学校     中高一貫教育     高等学校  
 教員養成     技術/職業教育  
 特別支援学校     その他 (                      )

所在地 〒988-0141  
宮城県気仙沼市松崎柳沢186番地

E-mail matsuiwa-chu@kesenuma.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

児童生徒数 男子 119名    女子 117名    合計 236名  
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 福祉                      ）

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

テーマ：福祉の里づくり ～福祉をとおして未来を考える～

#### 1 本校のESDでめざすもの

##### (1) ねらい

気仙沼支援学校や福祉施設との連携・交流を中心に地域に根ざした「探究的学び」「協働的学び」へと段階的に取り組み、福祉活動を通して「すべての人」のための未来を築く必要性を実感し、次代の担い手としての自覚を高め、福祉や防災へ積極的に関わる心と態度を育成する。

##### (2) 育てたい資質・能力

- ・気仙沼支援学校との交流活動を通して、互いに認め合い、協力し合う意識を育てる。
- ・高齢者との交流活動を通して、人生の先輩として尊敬し、敬う意識を育てる。
- ・障害者及び高齢者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。
- ・社会の仕組みや地域の未来に目を向け、自らが未来の社会の担い手となることを自覚し、積極的に地域に関わり行動しようとする心と態度を育てる。
- ・防災における自助・共助の意識を高める。
- ・福祉の視点から地域の防災についての問題点や課題を見つけ、その解決方法を考える力を育てる。

##### (3) 本校ESDの特長

30年以上続いている気仙沼支援学校との交流や高齢者との交流を通して「福祉の里づくり」をテーマに体験活動及び探求活動を行ってきた。更に昨年度から地域の防災に目を向けて、3年生のサブテーマを「福祉の目で防災を考えさせる」としてきた。今年度は、防災訓練時に地域住民や保護者の参加を得ることで地域との連携を図っている。

#### 2 27年度のESDの概要

##### (1) 実践の概要

##### 1年生【互いを知るため】

- ・気仙沼支援学校との交流を通して、互いに認め合い、協力し合う意識を育てるとともに、障害者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。

主な活動：支援学校との交流活動（レクリエーション交流、グラウンドゴルフ交流、クリスマス交流）／福祉体験学習

##### 2年生【先人に学ぶ】

- ・高齢者との交流活動を通して、人生の先輩として尊敬し敬う意識を育てるとともに、高齢者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。

主な活動：高齢者との交流活動（昔遊び、戦争中の生活、元気の秘訣）／福祉講話（高齢者福祉について）

##### 3年生【福祉の目で防災を考えさせる】

- ・福祉の視点から防災について考え、地域を見直し、問題点や課題を見つけ、その解決方法を調べてまとめる。未来の社会の担い手としての自覚をもち、積極的に関わっていかうとする態度を育てる。

主な活動：グループテーマに基づいた探究活動（心のケア、居住空間、災害のメカニズム、サバイバル）

- (2) 各校ESDの課題点の解決に向けて、今年度、特に工夫・改善したこと  
地域に根差した取組みにするためには、生徒と保護者や地域住民が、考えや願いを交流できる場の設定が必要であった。そのため今年度は、防災訓練時に自治会長さんや保護者、地域住民の参加協力を得て、防災について意見交換をする場を設けた。

### 3 「ポスト DESD としての GAP (グローバル・アクション・プログラム) の推進」に向けての成果と課題

#### (1) ねらい・目的の視点から

- ①成果 30年以上続いている支援学校との交流は、今後も本校のESDの柱の一つである。昨年度より取り入れた防災の視点は、新たな角度から地域を見直す機会となり、福祉に対する視野をさらに広げることにもつながったと考える。
- ②課題 福祉の学習が防災を考える上で生きてくるような、福祉と防災を関連させた活動内容を今後も工夫していきたい。また、地域との連携強化や人材の発掘に努めなければならない。

#### (2) カリキュラム・マネジメント (指導計画・内容・方法・連携・交流等) の視点から

- ①成果 1年時で「障害者福祉」、2年時で「高齢者福祉」について学び、3年時に地域性を踏まえながら防災について探究活動を行うことで、防災意識を高めると共に、福祉や地域についての理解を深めることができた。
- ②課題 単発的な体験活動にならないように、指導計画の中に課題解決学習を明確に設定する必要がある。また、防災についての探究活動では、教職員が変わっても継続した取組みを行えるように資料を引き継いだり、教職員の得意分野を生かしながら活動内容の充実を図ったりと工夫する必要がある。

#### (3) アクティブ・ラーニング (主体的・探求的・協動的な学習) の視点から

- ①成果 学年ごとに地域に生きる人達との体験活動や交流を行うことで、身近な問題として考え、主体的に学ぼうとする姿勢が見られた。特に今年度は、防災訓練の際に地域住民が参加したことで、地域の防災を地域住民と一緒に考えようとする大きな一歩になった。
- ②課題 今後も「福祉の里づくり」の学習をより地域に根差した取組みにするために、生徒と多くの保護者や地域住民が、考えや願いを交流できる場の設定を検討していく必要がある。

#### (4) 評価 (育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容等) の視点から

- ①成果 身近にある「福祉」について考えることで、誰もが思いやりの心をもって接することの大切さに改めて気付かせることができた。さらに、地域性を生かした福祉への取組みや防災活動を行うことで、地域の未来に目を向け、積極的に地域に関わり行動しようとする気持ちを高めることができた。
- ②課題 文化祭で、各学年のプレゼンによる発表やレポート等の展示発表を見聞きするだけでなく、感想箋や付箋紙などで学年間を超えて生徒同士、または、保護者や地域の方の意見や感想などを交わすことで、より考えや理解を深めたり、自己肯定感や達成感を感じさせたりしたい。

### 4 今後のESDの方向性 ～21世紀型能力の育成等～

#### 地域連携の継続

- 福祉については気仙沼支援学校や福祉施設とのつながりを大切にしながら、防災については地域住民の方の協力を得ながら、より一層地域と一体になった取組みを目指したい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）